

正福寺だよりNo.115 令和 2 年秋彼岸号 9月19日発行 説江山 正福寺 浦安市堀江 2-6-35 .047-351-2742 FAX047-350-5123

nttps://syoufukuji.t

http://temple.nichir en. or. jp/1041125-sho fukuji/

yami.xyz/

ますので

お車でのお越しはご遠慮下さい

お彼岸中

(九月十九日~二十五日)は、

境内が混雑

お

願

しり

不安と安心

盛り、害虫やケダモノがすぐそばにいるのに、安心しきって遊んでいる子 法華経の三番目、譬喩品に説かれる「三車火宅の譬え」です。家は燃え 弟・貞弘の嫁さんの美千代ちゃんに絵を描いてもらいました。

先月、境内の掲示板に

「大丈夫なのに不安でいっぱい、大丈夫じゃないのに安心している

愚かな私たち」

と書かせて頂きました。

日々の地道な努力に不安を感じてしまい、 目先の美味しい話、 楽な話に

飛びついてしまう・・ そんなことのないようにしっかり自分を保ちましょう。

〈貞真〉

令和二年八月十七日 施餓鬼会法話

「慳貪の罪」

徳蔵寺 加藤彰晃

ち ഗ 自 で の 髪 す。 分た の 目 に 毛の太さの千分の一。 ちさえ良け は見えません。 れば」という心があぶり そんなものに私たちの中に ウイ ルスの大きさです。 出され て あ 私 い る る た

お盆、正しくは「盂蘭盆(うらぼん)」と言いますが、

す。 通力と言って「壁 と称せ 方がいて、「神通第 の 日 所に す 抜 「目連尊者」とい 中 ついて『盂 蓮 生 心 お釈迦様の いる、瞬時に 神通第一とは、 を 読 ま 聖 で 等 移 ら れ 示さ ر ص 動する、 み取る、 れ は 変 不思 てい わ れ そ 一蘭 ij お の 議 て 盆 をす を 別 第子 他 ま い 御 由 な 者 う 見 々 の 神 L ま 書 来

> と神通 燃え 上 が み、 を、 に で 母 るようになりました。 を得て、 たということです。 取 母 親の姿が り、 やがて普通では見ることのできない世界をも見通 お りロ 若くして道を求 さかり、 の 釈 元に 力 1= 飢え苦しみの世界で で水をかけますが、 母 迦 の 運ぼうとしますが、 食 あったのです。 様)身も の 事を届け ますます母を苦し お弟 焦がします。 子 目 め I連尊者 ます。 の するとそこには お釈 中でも特に 目 連 尊 その水 ある餓 母 迦 は 目連 は喜ん 様 たちまちに炎となって め 幼 の 少 ま 者 尊 鬼 すぐ が ū の お す。 でそ 飢餓に 母を哀 ま 者はその火を消そう 道を見ることが 弟子となり修 頃 1= た れ 母を亡く て身に ŧ の ゃ 食べ ħ 苦しむ自分 み、 炎となって も の つ 神通 行 け 燃え でき に を ま て す 力 の 力 励 い

い 4 連 し 迦 い ると説 尊 たならば、 様は目連尊者の と知ると、 目連 から救うことができたのです。 者はお 尊 き、 者は 釈 母を助けることができると諭され 七月十五日に 迦様 師であるお釈迦様に助けを求め 自らの の 母が罪深いため、 教 神通力では母を救うことが えの 通り 他の修行者を集 行って、 い まは餓 母を餓っ め 鬼道 まし て 鬼 ま 飲 かな *t*= し に 道 食 |堕ち *t*= を供 の お ゎ 目 て 釈 な 養

餓 を救うことができな 通 こ もの 鬼 れ 第 道 が ー と 讃 お に堕ちた罪、 盂 蘭 み。 えられ 盆 供 むさぼ 養 た目連尊者が、 の それ かっ 始 ij まりで今に たのでし は 欲ばり」ということです。 慳 貪の なぜに餓鬼道に堕ちた ようか。 。 続 罪 1) て で 1) し 目 る た。 連 の 尊者 で 慳 す 貪 の が 目 母

母 神

はが



れ

ば

人間

でもない。

愛 情

は修

行

これまでの修行では、 です。 者 者 れ 目 堕ちることも て は、 た 連 が で 自 尊 の 身 尊 ま ŧ 者 母 の慳貪 仏 者 の ではなく の 母の 道の 愛 た。 我が の 母 母 で 愛 は す。 修行 の の 令を忘 子 慳 い 自 罪 罪 ع 貪 者 を だけ わ が の れ 実 お でも は 省 戒 罪 釈 な 餓 護 を 4 め 目 を 迦 い 鬼 の妨 指 な な 連 様 道 犯 た け いの 尊 摘 そ は

を 説 げ 父母をも仏と成すのだ」ということを、 を歩もうとする本当の そ で あり、 き、 の 愛情 目連尊者 不必要なものと思い込んでい つまり慈悲こそが、 に 教えたのです。 仏 の道であ 人を救い り、 自分自身を仏と たであろう。 お 釈 共に仏と成る道 迦 様は 法 成 華 経 か

は 不幸なことかも な か考えず、 ル 今 ス は へのニュ でし 毎日 慈悲を持たない、 何 ようか。 なすべきことをなさず、 1 知 人感染した、 ス れ が 自己中心の考えで、 流 ませんが、 れ これこそが慳貪 てい ま 何 人死ん 本当の不幸とは自分のこと す。 病に 無駄に生きることで だ」 なり、 の罪なの 人を救おうとする と新型 死ぬ です。 コロナウ にことは

徳蔵寺・ 加藤彰晃〉 愛

L

1







の 三 年 の の中、 為 の 回 施 に分散して営み 密 餓 ご理解ご協力ありがとうござい 集を避け、 鬼 法 要 は 午 新 まし 型 前 九 コ た。 時 ナウ + 1 時 ル ス感 ました。 午 後一 染予

時 防





囲新 で 型 行 \Box を営み ナウ ・ルス ス感染予防に した。 注 意 Ū なが ۶, 出来る範



柏・妙照寺大祭万灯練供養 7/4 ぎりぎりまで開催を検討していた妙照 寺さん、境内の出店などを中止にし、感 染対策を施しながらご祈祷会と万灯練 供養を営みました。私達は少人数で乗用 車に分乗して向かいました。



寺ヨガ(6/14・7/12・8/2) 緊急事態宣言中の4月・5月は中止。 6月から再開しています。マスク着 用にて体に優しいヨガをご指導頂 いています。

(7/21 土用丑の日) 玄関にて検温、手指の消毒をして頂き、 飛沫防止シートを施してご祈祷をしま した。

ほうろく加持・虫封じ加持











ステイールパン体験

 $(8/9 \cdot 8/29)$

初企画、ドラム缶から出来た楽器。ステイールパン奏者である松戸市慶国寺の渡辺明応上人指導の下、きれいな音を奏でました。



陶芸道場

(7/26 - 8/23 - 8/30 - 9/6)

今年で19年目を迎えた陶芸道場。

陶芸家・小泉すなお先生指導の下、 毎年、沖縄のシーサー面を作ってい ます。

例年約80人の参加で盛り上がるのですが、今回は少人数の20名定員で4回に分散して行いました。

残念ながらカレーライス、スイカ割り、肝試し、花火は中止しました。 シーサー作りの後は、写経やゾウの ウンチ紙を使用したお守り作りに取 り組みました。

最後にやった語呂合わせゲームが意 外と盛り上がりました。

た 後 親 の 戚 長

母さんありがとう

正福寺内 田 中千代 美

親

い

制 の ഗ 危 え の 時 そ 中ご の電話 なかった私 篤 に 父親 の 厚 知らせです。 意 があったのは陶芸道場の が 事 で会わせて頂き、もう意識の無 の ·故死 「ありがとう」、 してから女手一つで育ててくれ 秋田の施設に向か 聞こえたかな。 真っ最中でした。 い コロナ厳 LI 中 言 しか た母 五 戒 体 歳

良かったねという思いもありま

す。

たかな。 中に 男出 今は 可愛がら 産 ഗ 安人 時は ŧ — 里帰りし、 れた一太(貞龍 緒にやってるん 初孫でもあったから母を始 が唱えたお経も れだよ。 聞 こえ め

三男出 世話をしてくれました。 産 ഗ 時は 私が無理を言って浦安に来てもら 感謝しかないです。 産

断ら らあまり歩けないと断られ、 で その 昔からの約束だった京都旅行に誘っても足 後 息子達 の 運動会に誘っても仕事休め そのくせ直後に叔父と金 痛 な 沢 い 1) 行 か لح

ゃ ŧ 遠慮してたんでしょう。昔 ったことをみると、や 質 あ で りま の 太 頑 陽 固 したが さで困 の ような 明るく ること 人 は 賑 で IJ

そん な母 が 、仲良く して

> 思考出来ない悔しさ、 だろうと思います。 し っていましたが、 た。 た 頭おかしくなっちゃった」と電話の 伯 か つ 最期は肺炎で苦しそうだったの 母 た人の不幸が が 亡く なってから様子が 今思うとその頃から認知症 認知症でも感情は 妄想から亡き父へ恨み言などありま 続いたから情 お 緒不安定 あるの ŧ 度に言うように か あり、 < が で思うように な 2始まっ な 楽になって りま の か ځ になり、 た

った。 ね。 と話したいことが一杯ある。なのに、 やっても同じ味にならないの。 欠きニシンやウド、焼きうどん、 途方に暮れました。 後悔は母ともっと話がしたかった。 痴呆症になってからそれが叶わないと気付 昔あんなこと、こんなことあったねと、 レシピを聞 ナスの よく作ってく ロ下手な娘でごめん 味噌 い 炒 ておけば 聞きたいこ め、 いた時には 'n た 良 <

もくれ ٢ る ŧ は 良い伴侶にも巡り会えたし。 からすれば子供が健康で平和 良 何 幸せ 生前、 のではないかと思っています。と同 かったね。 親になってそう思うので母の日にカーネー を残せるのかと考えています。 な を感じつつ生きてい 私が結婚してから母は い 息子達だけど充分私は 幸せそうで良かった」と言ってい くことが まだ途中経過だけどこれから に過ごしているの よく 幸せだと思っ 「貞真さん あ 時 の 世 子どもた の 母 も と出 ション一本 ました。 7 が一番だ い 安心す 会えて ま

秋田のババちゃんへ



時の クに の作った、きりたん 毎年ゴ みでした。秋田 焦げた、豆の入ったカ 食事は、おばあ に行くのがとて 秋 田 の ル デンウィ ちゃ 1 うちゃ ぽ 帰 ŧ 鍋 った ん غ ん 楽

いです。レーライスでした。それがもう食べられないと思うと寂しレーライスでした。それがもう食べられないと思うと寂し

ング1位はきりたんぽ鍋です。りたんぽ鍋を初めて食べた時から自分の好きな鍋ランキー認知症になったと聞いた時はとてもショックでした。き

ありがとうございました。(貞龍)八十年間、大変お疲れ様でございました。

きり に 行きます。 毎 たんぽ 年 _ | | 鍋を大量 ルデンウイー 小さい頃から楽しみにしてい に作ってく クになると秋田 れました。 の ま ば し ばちゃ た。 い つも ん家

と安心 か ら 昔 聞 すると言っ 秋田 か せ て の あ ばばちゃ げ て ようと思いま い んは、 まし た。 お経を唱えたり聞 す。 少しお経を覚えたの (安人) いたりする いでこれ

> ぽ鍋 た。 んぽ 以上の物を食べたことはないです。 はよく分か 秋 お 鍋を思 を食べましたが、 田 ば の あ お ちゃ、 りませんが、 ば い 出し あちゃ んが ま 施設 す。 ん 何かが違うと感じました。 の あの 未だおばあちゃ 思い出 に入ってから 素 朴な と言えば、 味 は専門店 が んの 年の 真っ先に きりたんぽ鍋 楽 のきりたん その し きりた み 違 で

たいです。(歩)またいつかおばあちゃんの作ったきりたんぽ鍋を食べ

屋をやってる義母の らふく食い、 年に一 した。 人 拶に行った時、 い 「あの人が生きていたら貞真さん、 よ・・・(笑)」 だった義父の 度の帰郷、 本当は義母も殴りたかったのかもしれない。 至れり尽くせりでもてなしてくれました。 義母にポロっと言われた言葉、 頑 妻の自宅に結婚の許しを得る 朝から温泉に浸かり、きりたんぽをた お店で頭を洗ってもらった時の 固で厳しいイメージが伝わってきま 殴られ たかも こけ ため 力強 ご挨 れ 床 職



事に一生懸命で、 い手 それでい い。長い間 た・・・ ました。(貞真) 終活」なんか無縁、 指、 気 持 ありがとうござ いつも目の の かも ち い ょ わ か 人 生 ゆる 前 つ 0

墓地清掃/世話人会



ありがとうございました

仏具磨き/正榴会



十七日(木)

鬼子母神様ご縁日

夜七 時 ょ IJ

十九日

 $\widehat{\pm}$

彼岸会

夜七時より

一十二日

火)

彼岸会

夜七時より

一十五日

(金 金

彼岸会

夜七時より

一十七日

(日)

寺ヨガ

午後二時より

お経廻り用マスク/渡し場さん作

二十二日

十 月 二日 月)

十七日

 $\widehat{\pm}$

鬼子母神様ご縁日

夜七時より

日

日

御難会

夜七時より

日

(日)

寺ヨガ

午後二時より

十二日

(木)

浄行様ご縁日

夜七時より

(木) 浄行様ご縁日

夜七時

日蓮聖人第七百三十九遠忌お会式

一十九日 (日) 寺ヨガ 浄行様ご縁日 午後二時より

一十二日

日)

夜七時

出来る範囲で開催しております。 |様のご理解ご協 力の程宜しくお願い申し上げます。

※ 法

行事等、

新型コロナウイルス感染予防対策を施

九月 ◎お寺の行事案内 二日(水)浄行様ご縁日 夜七時より

十月

二日

金

浄行様ご縁日

夜七時より